

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 11 月 16 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数)
地域アンケート回答数	0名	

※事業所記入

事業所番号	3890101854
事業所名 (ユニット名)	グループホーム One Life Aユニット
記入者(管理者) 氏名	堀 泰明
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 26 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活の質の向上 共に生きる姿勢 信頼関係の確立 	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 統一される内容についてはチェック方式で記録を残す事にした。計画と運動するよう常に目につくファイルに綴じるようにした。そうする事で、利用者の課題を再認識する事も出来た。 事業所の取り組み、職員については定期的なお便りにて報告する事が出来た。 関係機関には定期的に訪問し、広報誌等の配布をした。地域行事への参加や勉強会を通じて多職種とも関係を築けた。 	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>幹線道路沿いにある事業所は、近くに総合病院があるほか、スーパーやドラッグストアなどが点在し、生活を送る上で利便性が良い環境となっている。事業所では、家庭的で、利用者が普段の生活が送れるよう心がけた支援に努めている。また、約3年半前のコロナ禍に開設した事業所では、徐々に様々な制限が緩和され、家族との対面での面会のほか、散歩時に地域住民と挨拶を交わしたり、秋祭りの際に、神輿や獅子舞に参訪してもらったりするなど、少しずつ対応できるようになってきている。今までに集合形式の運営推進会議を開催できていなかったが、訪問調査月には、家族等の参加を呼びかけた初めての会議を開催を予定している。さらに、食事の際には、利用者と一緒に職員が調理した食事が提供され、季節の行事食や誕生日に好みのメニューを取り入れるなど、利用者に喜ばれている。地域との繋がりが災害支援、運営推進会議など、コロナ禍が続き、事業所として対応できなかった様々な課題はあるものの、感染対策も緩和され、施設長や職員ともに前向きで、利用者の穏やかに、楽しみのある生活に向けた支援に取り組んでいる。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前に確認し、入居後は施設生活の中で入居前と変化した意向に気づき、寄り添えるように努めている。	○	/	○	入居前に、管理者等が自宅を訪問して利用者や家族と面会するほか、事業所を訪問してもらい、思いや暮らし方の希望、意向などの聞き取りをしている。入居後も、日々の生活の中で、職員は利用者から思いを聞くほか、意思疎通の難しい利用者には、表情やしぐさなどから読み取るよう努めるとともに、家族から情報を確認している。把握した情報は、申し送りノートや事業所独自のアセスメントシートなどに記録を残し、職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	入所前の情報を基に、日々の関わりの中の利用者の表情や仕草から検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所前面談では、紹介者、利用している施設、ケアマネジャーから、入所後は、面会時、必要時には施設より、適任者に問い合わせをしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	入所前に、利用者基本情報に記載し、職員がいつでも閲覧出来るようにしている。日々の関わりで得た事は、その都度個人記録に記載し、カンファレンスで統一し記録に残す。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	カンファレンスでの対応を実践しつつ、本人の思いを確認している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前に、スムーズに施設生活に移行出来るよう生活環境を整え、同じようなサービスが出来るよう体制を作っている。入所後も必要に応じて、問い合わせをしている。	/	/	○	入居前に、管理者等が利用者や家族と面談を行い、基本情報シートや独自のアセスメントシートを活用して、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわり、大切にしてきたことなどの聞き取りをしている。病院の地域連携室等からサマリーなどの情報をもらったり、在宅時の介護支援専門員や介護サービス事業所などの関係者から情報を得ることもある。中には、情報を聞き取ることが難しい利用者もあり、家族から情報を聞くことが多くなっている。把握した情報は独自のアセスメントシートなどに記録を残し、職員間で共有するとともに、計画の更新時には、新たなアセスメントシートに情報を更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入所前に基本情報で把握しておくが、入所後の変化等は、気になる事は個人記録に残し、カンファレンスで検討し職員全員で把握出来るように努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	利用者の日課に対応した利用者毎の個人記録用紙を作成し、把握に努めている。変化に応じ、記録用紙も変更している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人への関心を持ち、本人の視点に近づこう努めている。モニタリング、カンファレンス、担当者会議で検討している。	/	/	○	往診時に、医師や看護師から指示やアドバイスを聞くほか、薬局などの関係者から意見をもらうこともある。また、利用者や家族から意見や意向を聞き、把握した情報をもとに職員間で話し合い、利用者の視点に立って、家庭的で、普段の生活が送れるように検討をしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	本人の反応を確かめ、ご家族、サービス提供者からの評価を伺い職員で検討し、課題把握に努めている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思い、意向、暮らし方が反映出来るよう努めている。	/	/	/	把握した情報をもとに、担当者会議を開催して職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に計画を作成し、施設長が確認をしている。コロナ禍が続いていたこともあり、担当者会議には、利用者や家族のほか、外部の関係者が参加することができなかったこともあり、事前に意見などの聞き取りをしている。計画には、利用者や職員から出された意見やアイデアを反映して、心身維持のために、階段の昇降や歩行訓練などを取り入れることができています。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族、多職種の方、お話をいただいて作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	入居前の情報と、日々のご様子を考慮し、穏やかに過ごせるように努めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族、連携している薬局、病院と協力をいただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	計画書完成の都度、職員に提示し共有している。			○	カンファレンスなどに参加して、職員は介護計画を確認するとともに、家族に同意を得た計画は、職員に回覧され、確認後に職員は押印するなど、内容を把握できるように努めている。また、介護計画は、職員がいつでも確認できるように、個別ファイルに綴じられている。前回の訪問調査から、個人記録である24時間の経過記録用紙を活用して、実施した支援内容に○印をつけて、実施状況を確認しやすくしているが、計画に沿ったサービスの実施状況までは確認することができなかったため、記録様式に目標や支援内容を転記し、○×印でチェックをしたり、実施できなかった場合には、その理由を記載したりするなど、分かりやすく、モニタリングの確認や評価に繋げられることを期待したい。また、日々の管理日誌や申し送りノート、個人記録など、同じような記録の記載も見受けられたため、今後は介護ソフトの導入の検討を行い、職員の負担軽減に繋げていくことも期待される。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	計画に沿ったサービスを実践出来るよう、計画書を個人記録の前に綴じている。勤務者は個人記録に記録し職員間で状況確認し支援に繋げている。			△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間に応じて見直しを行っている。			◎	介護計画は、3か月に1回見直しをしている。利用者毎の担当職員が、毎月利用者の現状を確認するとともに、3か月に1回モニタリング評価・記録表を活用して、利用者や家族の満足度を確認するほか、効果や継続性などを評価するとともに、コメントを残すことができる。また、利用者の大きな状態の変更や退院時など、随時計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	1回/月でモニタリングをしている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化があり、計画がそぐわない場合は、計画の見直しを行っている。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	職場会議は1回/月、担当者会議は1回/3か月に開催し、緊急案件は都度職員で話し合いを設けている。			◎	コロナ禍が続き、ユニット毎に毎月現場会議を開催し、利用者の現状確認をするほか、課題などの話し合いをするなど、内部研修と合わせて1時間30分程度の会議を開催している。緊急案件のある場合には、施設長とその日の出勤職員で話し合うとともに、随時会議日時を設定し、話し合いをすることもある。より多くの職員が会議に参加できるように、事前に会議日程を調整し、毎月の勤務表の決定時には、会議の開催日時をお知らせしている。また、活発で有意義な会議が行われるように、事前に職員から議題を募るほか、課題等の意見を提出してもらおうなどの工夫が行われている。さらに、会議に参加できなかった職員には議事録や申し送りノートなどを確認してもらい、確実な情報共有に努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から、誰でも意見が言える職場環境作りを心掛けている。会議では、自由に発言していただいたり、事前にアンケートを配布し目的を持った会議に努めている。			○	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	会議開催にあたっては業務内容等調整し開催している。開催後は、早急に議事録作成し、変更事は議事録完成後としている。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	△	朝・夕申し送り。その後、不明な点は確認し合っている。		◎	○	日々の朝夕の申し送りを、申し送りノートを活用して実施している。中には、短時間勤務の職員もおり、日中にも申し送りや引き継ぎが行われている。また、申し送りの後には、個別に職員同士で課題や不明な点を確認し合うこともある。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その日コミュニケーションから「したいこと」を把握し、行事とすり合わせをしながら叶えられるよう努めている。				日々のレクリエーションや入浴の有無、漢字合わせ、調理の手伝い、洗濯物の取り込みなど、職員は利用者へ声をかけて、その日にしたいことを自由に選んでもらい、思い思いの普段の生活が送れるよう支援している。また、着る服や手伝いなどを利用者自身で自己決定することは、習慣化されてきている。また、気の合う利用者同士が数人で居て話したり、漢字合わせなどのレクリエーションをしたり、調理の下ごしらえをするなど、本人がしたいことをしている時に、利用者の活き活きとした表情や言動を見ることが出来る。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	日常生活を通して、自己決定出来る声掛けや、関わりを工夫している。			○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	業務と利用者のリズムをすり合わせながら支援に努めている。				
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	穏やかに過ごして頂くことを目標として、言葉掛け、雰囲気作りをしている。			○	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	日常の関わりを通して、表情や仕草を職員間で共有し、皆が支援出来るように努めている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声をかけないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	内部研修会を開催し、振り返りアンケートを記入してもらい、自身の発している言葉が利用者へ配慮出来ているか内省し、それを基に管理者と個別面談している。	○	-	○	内部研修の中で、職員は利用者の人権や尊厳などを学ぶ機会があり、理解促進に努めている。立位が不安定な利用者が、自身で立つて歩こうとする時などに、瞬間的に「ちょっと待って」など、職員が大きな言葉を発する場面も見られ、職員間で注意をし合うとともに、施設長が発見した場合には、その場で注意喚起をしている。また、トイレ誘導の際に、周りの利用者に関わらないように、職員が小声で伝えるなどの配慮をしている。さらに、居室の入室の際には、利用者の在室の有無にかかわらず、職員はノックや声かけをした上で、入室をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレは共有なため、トイレ誘導は特に配慮して介助を行っている。				
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室入室時には、声掛けとノックを心掛けている。			◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解し、遵守するよう周知している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	出来ることは行っていただき、していただきたいことに感謝を伝えている。	/	/	/	相性の悪い利用者もあり、大きな声を発するなどのトラブルが起こりそうな場合には、早期に職員が仲介するなどの対応をしている。また、職員は利用者の性格や利用者同士の関係性を把握し、配席などの考慮をしている。中には、電子ピアノを弾く男性利用者もあり、一緒に歌を歌ったり、不安そうな利用者へ他の利用者が励ましの声かけをしたり、車いすを押すのを手伝うなど、助け合いや支え合う場面も見られる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	入居者とおしのコミュニケーションを大切に、出来ることで相手と支え合えるよう努めている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者の関係性を考えながら、リビングで過ごす場所、順番、関わり方に気を付けている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	当事者それぞれの話を傾聴し、中立の立場で判断するよう努めている。周囲の利用者に影響を受けないよう配慮している。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入居前の情報と、日々の関わりの中で把握してきたが、利用者の長い人生を思えば、もっと把握していきたい。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	新型コロナウイルス感染症状況をみながら、面会の中止、再開を繰り返している。現在、予約制で面会を再開。本人が出掛ける機会が少ない。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	外出緩和時に近くの公園に花見に出かけたり、港まで出掛けたり、不定期にドライブもしている。施設に花を植え、水やり等外気に触れる機会を設けた。	○	-	○	コロナが5類に移行され、利用者が近隣の公園まで散歩したり、敷地内に出て外気浴をしたり、ドライブに出かけるなど、徐々に屋外に出る機会も増えてきている。また、重度な利用者も一緒にドライブをして、公園で花見をしたり、港に大型客船を見に行ったりするなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、病院への受診の際に、買い物に出かけることもある。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	新型コロナ感染防止の為、外部との接触は控えていた。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修、勉強会で学んでいる。学んだことを支援に活かせるように取り組んでいる。	/	/	/	ほとんどの職員が、認知症基礎研修を受講し、内部研修を実施していることもあり、認知症の行動や心理状態を理解している。また、利用者一人ひとりのできることやできそうなおことを把握し、できることは極力時間がかかっても自分でしてもらい、見守りや待つ介護に努めるとともに、できない部分を手伝うなどの支援をしている。さらに、調理や洗濯物たたみなどの生活リハビリのほか、散歩や体操、歩行訓練、かるた、漢字パズルなどを取り入れ、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	生活しながら機能維持が出来るよう、立ち上がり、移乗でのバランス移動、歩行、嚥下運動に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなおこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来ることは、本人のペースを見守り自己肯定感を維持出来るよう心掛けている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入居前の情報を基に、施設での生活の中で楽しみ、役割、出番の把握に努めている。	/	/	/	調理の手伝いや洗濯物の取り入れ、テーブル拭きなど、習慣的に利用者が役割を担うことができていて、ブランターに花を植えたり、水やりをしたりするなど、役割や出番が担えるよう支援している。中には、以前音楽の教師をしていた利用者が、電子ピアノを弾いて一緒に歌うなどの出番や役割を担うこともある。また、利用者へ手伝ってもらった場合には、職員から感謝の言葉を伝え、張り合いや喜びのある生活が送れるような支援にも努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日々の関わりの中で、出来ることをしていただき、利用者ひとりひとりが主役で過ごせるように努めている。	◎	-	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	個別に対応し、その人らしさのおしゃれの把握に努めている。				毎朝、自分で服を着替え、身だしなみを整えることができる利用者もおり、職員は声をかけて、目や二を拭いてもらうなどの支援をしている。電気シェイバーを使用し、髭剃りをする利用者もいる。また、食べこぼしなどの衣服の汚れや乱れが見られた場合には、さりげなく拭き取るとともに、居室へ移動して、着替えてもらうなどのサポートをしている。中には、朝に着替えた後に、再度着替え、同じ服を着続ける利用者もいるが、無理強いすることなく、清潔保持に努めている。5月の母の日には、化粧をしてもらい、利用者には喜ばれている。さらに、訪問美容を利用し、重度の利用者も好みや以前の髪型にしてもらっている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	自宅での生活に近い生活が出来るように、家族様と相談し持ち物を整えている。訪問散髪では、利用者の好みの髪型をカットを依頼している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	入所前の基本情報を基に、家族に追加情報を得たり、日頃の様子から利用者像を膨らませ、利用者の気持ちに添えるよう努めている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	季節に応じた服装、また意思決定が出来る方は、本人希望の服装で過ごせるよう努めている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	支援するタイミング、声のトーンに気を付け、利用者の自尊心に配慮しながら行っている。	◎	-	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	訪問美容を受けているが、行きつけの希望あれば対応出来る。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重篤な状態であっても本人らしさが保てるよう職員配置も考慮している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	必要な栄養を、利用者自身が経口から取る事、食後は口腔内の清潔を保つ大切さを理解している。				その日の調理担当の職員が、冷蔵庫の食材等を見て献立を考え、調理の下ごしらえや片付けを手伝ってもらいながら、利用者と一緒に調理をしている。その日のメニューは記録に残している。近隣の農家から、旬の野菜を購入して届けてもらうほか、週1回生協の宅配サービスを利用して食材を購入し、足りない場合は、職員がスーパーに買い出しに出かけている。年間を通して、利用者に季節の行事食を提供するほか、誕生日には、事前に聞いた好みのメニューを提供している。季節に応じて、食卓の上で鍋料理をすることもあり、敬老の日には、テーブルを囲んで、美味しく羊炊きを食べることができ、利用者には喜ばれている。訪問調査日には、ユニット別々のメニューが提供され、美味しくいただくことができた。アレルギーや苦手な食材のある場合には、代替品を用意している。茶碗や湯飲みなどの食器類は、入居時に利用者を持参してもらうほか、様子をしながら、事業で用意した使いやすい物を使用してもらっている。利用者の状態に応じて、刻みなどの食の形態に対応している。また、内部研修の中で、嚥下状態でのトロミの使用などを学ぶとともに、お茶などに入れて、実際に職員が試飲体験などを行っている。コロナ禍で開設した事業所は、当初から食事の際に、利用者のみで食事を摂っており、職員は利用者と同じ目線で見守りやサポートを行うとともに、休憩時間を利用して、持参した食事を摂っている。さらに、日中に利用者の多くはリビングで過ごし、オープンキッチンから調理の音や匂いを感じることができている。加えて、栄養士までのアドバイスを受けることができていないものの、職員間で調理方法やバランスなどを話し合うことができています。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	一部の利用者には、不定期に依頼し、調理、後片付けを共にやっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	利用者の力が発揮出来るよう、さりげなく支援し、出来た達成感と感謝を伝えることで自信を持ってもらえるよう努めている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前の情報を基に、日々の関わりの中で情報を追加していき継続把握に努めている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのもの等を取り入れている。	○	調理担当者が、毎食献立を考え調理している。メニューを記載し残している。毎週食材を注文し、近所の農家さんの取れたて野菜を届けてくださっている。年中行事食、誕生日食を提供し、回想話を伺っている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者の状態に合わせた料理形態。食器の選択、食器の配置をしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入所時は、使用していた茶碗、湯呑みを持参して頂いている。日々のご様子を見て、使いやすい食器に変更する事がある。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	職員と一緒に食事を摂っていない。食事摂取は出来る限り、自力摂取していただき、介助が必要な時は、同じ目線でさりげなく行うようにしている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	五感で食事を感じていただけるように、調理担当者、フロア担当者が協力して努めている。			◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	個人記録表を作成し、1日量が確保できるか確認しながら支援に努めている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	個人記録表を作成して、提供毎に摂取量と、1日総摂取量を記入その、次回の提供時の参考としている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	調理担当者が、食材と、献立表をみて、偏らないようにメニューを決めている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	職員は手洗いの励行。調理器具は調理後に洗浄消毒している。毎食前にテーブルと利用者の手指消毒している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	提携歯科から、座学と実技講習を受け、必要性、重要性を理解した。	/	/	/	内部研修の中で、歯科医から口腔ケアを学び、職員は必要性や重要性を理解している。毎食後に、職員は利用者に声をかけ、リビング横にある洗面台で口腔ケアを実施している。事前に、口腔ケア用品を用意し、多くの利用者は自分で歯磨きをしている。中には、歯間ブラシなどの用品を使用し、職員がサポートをするとともに、全ての利用者の口腔内の確認をすることができている。口腔内の異常が見られた場合には、訪問歯科診療に繋げている。中には、義歯を預かることを嫌う利用者もいるが、定期的に消毒液に浸けるなど、清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	入居前に基本情報で把握し、毎食後の口腔ケア時に変化はないか観察している。	/	/	/	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	講習会で実技もあり、口腔ケアの正しい方法を学び日常の支援に活かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	講習会の実技を生かし、利用者の義歯の手入れを利用者に合わせ支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後に声掛け、見守り、出来ない箇所を支援を行い、治療が必要な利用者は訪問歯科に繋げている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の自立の大切さを理解している。1回/月の職場会議で排泄対応の見直しを行っている。	/	/	/	重度化に伴い、テープ式のおむつを使用している利用者もいるが、事業所では、可能な範囲で利用者がトイレで排泄できるよう支援している。中には、布パンツで過ごすことができている利用者も数名いるが、ほとんどの利用者は紙パンツを使用している。また、夜間にポータブルトイレを使用したり、睡眠確保などから、夜間のみ、おむつを使用する利用者もいる。また、排泄表を使用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者に合わせた声かけやトイレ誘導をしている。さらに、利用者の状態に応じて、パッドや紙パンツなどの排泄用品の使用が必要となった場合には、月1回行う現場会議で、必要性や適切な用品を話し合うとともに、利用者や家族に相談の上で使用している。軟便剤を服用している利用者もいるが、水分量を確認するほか、運動やマッサージを取り入れ、利用者の自然排便を促している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘からくる利用者の個々の変化を職員で共有し、個々の対策を検討している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を利用し確認している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	出来る限りトイレで用が足されるように、個別に対応している。1回/月の会議で対応を検討している。	/	◎	/	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	1回/月で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	利用者の仕草を職員間で共有するとともに、排泄チェック表を利用して、トイレで排泄が出来るよう努めている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	入所前に、ご家族とおむつの使用を相談し、入所後の変化時にはご家族、業者等に相談し利用者の使い勝手の良いものに変更している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	個別に下着の種類を決めたり、日中と夜間で使い分けを行っている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	個々の飲水量を確認しながら、水分摂取を勧めている。生活の中に運動、マッサージを取り入れている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	曜日、時間帯、回数は習慣に添えていない。長さ、温度は添えるよう努めている。	/	◎	/	週2回、午前中の時間帯に、利用者は入浴をすることができる。回数増や毎日の入浴希望、時間帯を指定する利用者はいないほか、現在は入浴を拒む利用者もいない。入浴の際には、職員がバイタル測定や状態を観察するほか、希望に応じて、湯船に浸かる長さや湯の温度など、可能な範囲で柔軟に対応しており、職員と一緒に長話を楽しむ利用者もいる。また、希望に応じて、家族に好みのシャンプーやボディーソープなどを用意してもらったりほか、季節に応じて、ゆず湯にしたり、入浴剤を入れたりするなど、気持ち良く入浴してもらえような支援にも努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個別に対応しており、くつろいでもらえるようベースに添った支援に努めている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	事故が起こらないように配慮しながら、自分で出来る動作はしていただいている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	原因を考え職員間で検討し無理強いしないよう努めている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	引継ぎで状態把握し、入浴担当者がバイタル測定を行い入浴対応をしている。入浴後はフロア担当者が状態観察を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	入居前情報を基に、日々の睡眠状態を個人記録しており、普段の睡眠状態の把握に努めている。	/	/	/	個人記録である24時間経過用紙に記録し、利用者一人ひとりの睡眠状況を把握している。中には、眠剤などを服用している利用者もいるが、日中の過ごし方などの工夫を行い、職員はできる限り服薬に頼らず、夜間に良眠できるよう努めている。また、薬が効きすぎて、日中にもふらつきなどの症状が見られた利用者もいるため、医師や看護師と相談し、薬の減量に繋がった事例もある。中には、腹痛などから眠れないことが続いていた利用者もいたが、医師と相談しながら対応し、現在落ち着きを見せている。ほとんどの利用者は、現在夜間に眠ることができている。早く寝て、早く起きてくる利用者もおり、4時半頃から朝食を準備し、食事を摂れるように対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	入所前情報を確認しながら、日中の過ごし方を見て原因を探るようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	職員で対応を試みて、検討を重ね医師と相談するようにしている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者の生活パターンを把握して、個別に休息、昼寝する時間を設けている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば対応している。着信、届いた手紙、品物は本人に取り次いでいる。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	支援希望に対応している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	周囲を気にせず話ができるように電話出来る場所を案内している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	受け取った連絡を入れている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	入所時に家族に説明して協力を得ている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	自尊心、自立心を保つ意味があることを理解しているが、所持されていない。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	現金の持ち合わせがない為、日頃から買い物先へ協力を得る働きかけは出来ていない。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	お金の所持は無く支援していない。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	入所時にお金の所持はしないことの同意をいただいている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	お金の所持が無い為ではない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ニーズに応えられるよう努めている。	◎	/	○	コロナ禍が続く、外出や面会などの制限が設けられていたが、徐々に緩和され、利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で柔軟な対応をしている。中には、遠方に住んでいる家族もおり、職員が病院への同行支援をすることもある。家族から、利用者との外出や外食などの要望も出されるようになり、施設長はさらなる制限をなくすことを検討している。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入ることができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先、フェンスに花を設置している。	◎	-	○	幹線道路沿いにある事業所は、近くに総合病院があるほか、スーパーやドラッグストアなどもあり、生活を送る上で利便性の良い環境となっている。玄関先や建物周りには、プランターに花を植え、明るい雰囲気を感じられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	玄関に生け花、観葉植物、階段・廊下には壁掛けを設置している。	○	-	◎	事業所は開設して約3年半が経過したが、職員が清掃や換気をするほか、整理整頓も行き届き、快適な空間が保たれている。ユニットの入り口には、クリスマスリースなどが飾られているほか、リビングある窓から、田んぼに植えられた稲作の成長が見えるなど、利用者は季節を感じることができる。リビングの横には洗面台の鏡が並び、大きな窓もあることから、開放的に感じられる。廊下にはソファが置かれ、移動や歩行訓練の途中で、利用者は休憩できるようになっている。また、建物の3階には洗濯機が置かれているほか、屋上が洗濯物干し場となっており、利用者は洗濯物を取り入れながら、周辺の景色を眺められるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎朝掃除を行い、こまめに換気をしている。カーテンで遮光調整をしている。	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	窓の外にプランターを設置して、利用者と季節の花の植え替えを行っている。季節行事、食事・アクティビティで提供し、回想を取り入れている。	/	/	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングからは距離を取れ、気配を感じながら過ごせるよう廊下にソファを設置している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	居室に備え付けの家具は個々にレイアウトをしていただいている。持ち込まれたり、送られてきた思い入れある品が置かれてある。	◎	◎	居室には、ベッドやタンス、エアコンなどが備え付けられ、利用者は使い慣れた家具やテーブル、テレビを持ち込むほか、家族の写真やぬいぐるみなどを飾り、居心地の良い空間づくりを支援している。クローゼットもあり、不要なものを置かず、すっきりと片付けられた居室もある。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	フラットな床で横開きドア、手すりを設置して事故防止につけている。トイレは大きく表示をして、見やすい表示にした。	/	/	○	自分の居室を認識しにくい利用者には、居室の入り口に、利用者目線に合わせて、名前と顔写真を貼り分りやすくしている。トイレの中には、発泡スチロールのブロックが置かれ、踏み台にして足の高さを調整するなど、利用者が排泄しやすいような工夫も行われている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	安全を優先して管理している物が多いが、希望があれば見守りで使えるよう準備している。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること)の異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	弊害は理解しているが、車の通りが多く、万が一の事を考えユニットによっては家族同意のもと施錠している事がある。	x	-	△	職員は内部研修等で学び、玄関等に鍵をかけることの弊害を理解している。日中に、玄関やユニットの入り口の施錠をしておらず、夜間のみ、19時30分から7時まで玄関やユニットの入り口の施錠をしている。以前に外に出て、数キロ離れた自宅まで歩いて帰っていた利用者もおり、建物が交通量の多い幹線道路に面していることもあり、利用者の安全面を考慮して、勤務状況や利用者の状態により、ユニットの入り口を施錠することもある。コロナ禍に開設した事業所は感染対策もあり、外来者にはインターホンで対応しており、利用者家族等アンケートから、鍵をかけない取り組みについて、十分な理解が得られていないことが窺えるため、日中に玄関を施錠していないほか、安全面を考慮して施錠場面があることを再説明するなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	理解をいただけるよう入居時話をしている。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所前情報を基に「基本情報」としていつでも見れる場所に設置している。日々の変化は個人経過記録に記録し、申し送り把握に努めている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	いつもと違うことが発見できるよう、利用者の普段を把握して対応している。継続した対応のため記録する重要性を理解している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になる事は、気軽に相談できるよう、お互い日頃の関係構築も心掛け適切な対応が出来るよう努めている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	これまでの受療状況を把握し、希望される医療機関や医師に受診出来るよう支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	希望を大切に適切な医療が受けられるよう努めている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	必要毎に、本人や家族と受診の仕方、受診結果報告、伝達方法を相談している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	病院からも書面で情報提供の希望があり、書面提示と共に口頭でも行うようにしている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	通院時から、情報交換に努めている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	職場内の看護師に伝えて相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	管理者、協力医療機関には24時間いつでも相談できる体制がある。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	状態変化時の連絡体制もあり、早期に治療に繋がるよう動いている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	個人別薬剤情報ファイルをいつでも見れる場所に設置して、現在服用中の薬の情報、今までの内服歴が確認出来るようにしている。変化は個人記録に記載し、看護師、管理者に提供している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	指示通り服薬出来るように、その都度複数職員が確認している。誤薬があった場合はその都度対策を考えている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日常的に確認を行い、職員間で共有出来るよう記録に残し引き継いでいる。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に看取りについて説明し状態の変化毎に家族と話し合い、意向を確認している。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合における対応に係る指針」「看取りの必要性が生じた場合の指針」があり、入居時に、家族等に対応できることを説明するとともに、看取り介護等の同意書を取っている。状態の変化などの段階に応じて、家族等に説明して話し合い、再度意向を確認している。また、重度化した場合には、利用者や家族等の意向に沿って、往診時等に医師から家族に説明するとともに、関係者を交えて話し合い、方針を共有している。看取り介護時には、職員と医療機関、薬局などのチーム体制で支援が行われ、感染対策を講じた上で、家族との面会を可能にしている。事業所では、今までに5名の看取り介護を経験している。さらに、職員には看取り研修を実施し、知識習得を促すとともに、負担や不安の軽減にも努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	その都度、本人・家族の意向と医療機関の治療方針を確認し、職員と共有している。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	利用者の状態、職員の対応力、協力体制を見極めて支援体制を整えている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時に入院との医療対応の違いを説明し、状態変化の都度、施設で出来る支援の説明をしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族、医療機関、薬局と連携しながらチームとして支援するよう努めている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	日頃からの関わりを大切にしている。その都度、家族の意向を確認し添えるよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症の勉強会は職場の年間計画に入っており、学んでいる。感染の流行時期には、注意喚起を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	マニュアルはあるが、訓練は出来ていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	必要時に確認している。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員、利用者は都度手洗いを励行している。定期的な手すり消毒を行っている。マスク着用中で、うがいは取り組んでいない。来訪者用の消毒液を準備している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	利用者を共に支え合う関係であるよう努めている。	/	/	/	コロナ禍に開設した事業所では、今までに家族が参加できる行事やイベントを開催できていない状況が続いている。感染状況が緩和され、3階のスペースを活用して、事前予約制で家族との対面での面会に対応できるようになっている。また、面会時や電話連絡時を活用して、職員は家族に利用者の近況を伝えるとともに、2か月に1回利用者の様子を書いた手紙やお便りに、写真を添えて送付している。状況に応じて、メールを活用して連絡を取り合う家族もいる。前回の訪問調査から、お便りを活用して、事業所の取り組みや職員の入職などをお知らせするようにしているが、利用者家族等アンケート結果から、家族に事業所の出来事や職員の入退職などが十分に伝わっていないことが窺えるため、今後は、集合形式の運営推進会議の中で、家族等に入退職などを報告したり、可能な範囲でお便り等を活用して、新人職員等を紹介したり、面会スペースの3階のほか、ユニットの入り口にその日の出勤職員を写真付きで紹介するなど、来訪する機会が少ない家族にも分かりやすく伝えるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナ禍だった為、出来ていない。	○	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	1回/2か月程度で、写真付き便りを送付している。また、メールでやり取りをしている利用者家族がいる。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるよう支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入居前の係性を理解し入居中の利用者との関係支援に努めている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事、職員の紹介をしている。	×	/	△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時、状態変化時にリスクと対応策を説明して、理解を得れるよう努めている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	日頃からご家族と馴染みの関係が築けるよう努めている。玄関に意見箱は設置している。湯茶の自由利用はしていない。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に説明し、理解をいただいている。必要時対応している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるよう支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	不明な事が無いように説明を行っている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立時に説明しご理解を図っている。	/	/	/	コロナ禍に開設した事業所は、町内会に入会しているものの、地域住民と交流できる機会は少ない。近隣住民から採れたての野菜を購入して配達してもらうほか、散歩時等には、近隣住民と挨拶や会話を交わしたりすることもある。秋祭りの際に、神輿に参訪してもらい、一緒に写真撮影をしたり、獅子舞の演舞をしてもらったりするなど、利用者には大変喜ばれている。施設長は、「近隣住民に子育て中の家族も多く、住民と一緒にイベントを開催できないか」と模索している。今までに、集合形式の運営推進会議の開催ができておらず、地域住民等に会議への参加の呼びかけや、地域アンケートの配布もできていないため、今後は、主旨を説明した上で関係者等にアンケートを配布してアンケートの協力をお願いするなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	町内会費の納入、近所の畑で取れた野菜の購入、お祭り時の神輿入れ、日常的なあいさつを行っている。	/	/	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	見守り、支えはあるが増えている実感はない。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	気軽な立ち寄りには少ない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	日常的なおつきあいは多くない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	働きかけは出来ていない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	拡大に向けた取り組みを行なえていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	家族、地域の方の参加はない。	×	/	△	コロナ禍が続き、今までに集合形式の運営推進会議の開催はできていない。書面では、事業所の活動報告や感染対策のほか、メールで行政等に報告をしているが、家族等への報告までできていない。また、地域住民等への会議への参画も呼びかけができていない状態となっており、市担当者や地域包括支援センターに相談するとともに、今後は野菜を届けてくれる近隣住民のほか、地域の自主防災組織や民生委員などに主旨を説明の上で参加を呼びかけたりするなど、事業所への協力者を募ることを期待したい。11月末に、初めての集合形式の会議の開催を予定しており、家族への案内を予定している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	誰でも閲覧できるように玄関に置いている。	/	-	△	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	工夫出来ていない。	/	-	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念は見える所に提示しており、都度目を通して実践出来るよう努めている。	/	/	/	別
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	来訪者には分かりやすい提示がない。	○	-	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員を把握し研修を受けられるよう取り組んでいる。	/	/	/	別のグループホームを運営する代表者は、定期的に事業所への来訪があり、職員に声をかけるほか、事業所内の様子を確認している。また、事業所として年間の研修計画を立てて、毎月内部研修を実施し、職員のスキルアップに繋げるとともに、資格取得も促している。認知症基礎研修は、ほとんどの職員が受講し、残りの職員も早期の受講を予定している。さらに、年2回施設長は職員との個別面談を行い、目標に沿った進捗状況を確認して意見を聞くとともに、職員が話しやすく、何でも言い合えるような働きやすい環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	スキルアップに取り組んでいる。資格取得にも繋がっている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	1回/6か月毎に個人面談し、職員の目標についてすり合わせている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	連絡会などの参加はしている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	普段から何でも言い合える環境作りに努めている。	◎	-	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	研修会、勉強会にて学び、実践出来るよう努めている。	/	/	/	○ 定期的に実施する内部研修等の中で、虐待や不適切な言動の防止などを学び、職員は理解している。事業所には、虐待・身体拘束廃止委員会が設けられ、定期的に話し合いをしている。日頃から、施設長は現場会議や内部研修の中で、不適切な言動が行われないように職員へ伝えるなど、注意喚起に努めている。また、虐待の芽チェックシートを活用して、一人ひとりの振り返りをしてもらうとともに、面談時等に職員と話し合いをしている。さらに、不適切な言動が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、施設長が発見した場合には、該当職員に確認の上で、指導や注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	巡回し、現場把握に努め、1回/月職場会議を開催し話し合いの場を設けている。不定期にセルフチェックをして振り返る機会を設けている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日頃の関わりを大切にしているとも違う感じに注意している。状況見て個人面談し、考え、思いを聞き取るよう努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会をし理解に努めている。判断が難しい時には上司に相談するようになっている。	/	/	/	別
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会や自己評価、必要時には、1回/月の職場会議の議題として話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	事業所の取り組みを説明して、理解を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	×	今までそのような事がない。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要になれば出来るように準備はできている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成して周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練はしていないが必要時に手当、対応を反復し、実践力を付けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	対策を実践し再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	入所前情報を基に、個別に対策を立て、生活を観ながら見直し事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルは作成しているが、対応方法の検討は少ない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があった場合は都度対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに検討を解答し、納得して頂けるよう努め、関係づくりを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	日頃から気軽に話気出来る関係性を築けるよう努めている。	◎		○	日常生活の中で、利用者が気軽に話しやすい環境づくりに努め、職員は意見や要望を聞き、可能な範囲で対応をしている。家族が来訪する機会は少ないが、面会時や電話連絡時を活用して意見や要望を聞くよう努めている。また、事業所内には意見箱が設置され、定期的に中を確認しているが、今までに投函されたことはない。さらに、日頃から施設長は職員から意見や要望を聞くとともに、年2回個別面談を行い、意見や提案を聞くことができ、レクリエーションのアイデアを取り入れるほか、職員や利用者の負担軽減のために、スライディングボードなどの福祉用具を導入したこともある。加えて、年1回以上、職員アンケートを実施し、職員の声を集めやすくするような工夫も行われている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	公的な窓口があることを、折に触れて説明している。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	出勤者と言葉を交わすようにしている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	1回/月の職場会議で、職員から利用者の支援について検討している。職員から個人的にと希望があれば意見や提案を聴く機会を持っている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	不定期に行っている。				外部評価の自己評価は、施設長を中心に作成をしている。また、現場会議等の中で、サービスの評価結果や課題を職員に伝え、目標達成に向けて取り組んでいる。書面では、評価結果を家族に送付している。今後は、集合形式の運営推進会議の中で、会議の参加メンバーや家族にサービス評価の取り組みの意義や目的を伝えたり、感染状況が落ち着いた際には、参加メンバーや家族にモニターの協力を呼びかけて意見をもらったりするなど、職員間で検討していくことを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	事業所の課題を考え目標達成に向け取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	実施出来ていない。	○	-	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業所内では確認している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアル作成して玄関に掲示している。	/	/	/	事業所では各種マニュアルを整備して、職員に周知するとともに、火災などを想定した避難訓練を実施している。消防署との連携は図れているものの、コロナ禍が続き、地域住民や他の事業所等との合同訓練などはできていない。集合形式の運営推進会議も開催できていないこともあり、地域住民等と災害への備えを話し合う機会もない。今後は、地域の防災訓練に参加して、自主防災組織等に協力を呼びかけたり、地域住民と合同の避難訓練を実施したり、運営推進会議等を活用して、災害の備えの話し合いをするなど、少しずつ地域との協力支援体制が構築されていくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画している。	○	想定を変えて避難訓練をしている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	点検している。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署との連携はあるが、地域、他事業所との連携、訓練は出来ておらず協力・支援体制の確保はない。	△	-	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	ネットワークづくりは行っているが、共同訓練は行っていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	取り組めていない。	/	/	/	事業所に近隣住民が相談に来ることもあり、快く対応をしている。コロナ禍に開設した事業所は、面会制限等が設けられていたこともあり、ボランティアや養成校の実習生などの受け入れは行われていない。市行政や地域包括支援センターなどの会議や研修、地域イベントに参加する機会は少ないものの、地区の介護保険サービス事業者連絡会やケアマネ連絡会に参画し、連携が図れるよう努めている。今後は、地域包括支援センターや他団体等と連携しながら、徐々に地域活動に協力していくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	来所があれば行っている。	/	-	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用出来ていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	協力出来ていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	密には行っていないが連携はとっている。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 11 月 16 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数)
地域アンケート回答数	0名	

※事業所記入

事業所番号	3890101854
事業所名 (ユニット名)	グループホーム One Life Bユニット
記入者(管理者) 氏名	堀 泰明
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 26 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活の質の向上 共に生きる姿勢 信頼関係の確立 	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 統一される内容についてはチェック方式で記録を残す事にした。計画と運動するよう常に目につくファイルに綴じるようにした。そうする事で、利用者の課題を再認識する事も出来た。 事業所の取り組み、職員については定期的なお便りにて報告する事が出来た。 関係機関には定期的に訪問し、広報誌等の配布をした。地域行事への参加や勉強会を通じて多職種とも関係を築けた。 	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>幹線道路沿いにある事業所は、近くに総合病院があるほか、スーパーやドラッグストアなどが点在し、生活を送る上で利便性が良い環境となっている。事業所では、家庭的で、利用者が普段の生活が送れるよう心がけた支援に努めている。また、約3年半前のコロナ禍に開設した事業所では、徐々に様々な制限が緩和され、家族との対面での面会のほか、散歩時に地域住民と挨拶を交わしたり、秋祭りの際に、神輿や獅子舞に参訪してもらったりするなど、少しずつ対応できるようになってきている。今までに集合形式の運営推進会議を開催できていなかったが、訪問調査月には、家族等の参加を呼びかけた初めての会議を開催を予定している。さらに、食事の際には、利用者と一緒に職員が調理した食事が提供され、季節の行事食や誕生日に好みのメニューを取り入れるなど、利用者に喜ばれている。地域との繋がりが災害支援、運営推進会議など、コロナ禍が続き、事業所として対応できなかった様々な課題はあるものの、感染対策も緩和され、施設長や職員ともに前向きで、利用者の穏やかで、楽しみのある生活に向けた支援に取り組んでいる。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前に確認し、入居後は施設生活の中で入居前と変化した意向に気づき、寄り添えるように努めている。	○	/	○	入居前に、管理者等が自宅を訪問して利用者や家族と面会するほか、事業所を訪問してもらい、思いや暮らし方の希望、意向などの聞き取りをしている。入居後も、日々の生活の中で、職員は利用者から思いを聞くほか、意思疎通の難しい利用者には、表情やしぐさなどからくみ取るよう努めるとともに、家族から情報を確認している。把握した情報は、申し送りノートや事業所独自のアセスメントシートなどに記録を残し、職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	入所前の情報を基に、日々の関わりの中の利用者の表情や仕草から検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所前面談では、紹介者、利用している施設、ケアマネジャーから、入所後は、面会時、必要時には施設より、適任者に問い合わせをしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	入所前に、利用者基本情報に記載し、職員がいつでも閲覧出来るようにしている。日々の関わりで得た事は、その都度個人記録に記載し、カンファレンスで統一し記録に残す。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	カンファレンスでの対応を実践しつつ、本人の思いを確認している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前に、スムーズに施設生活に移行出来るよう生活環境を整え、同じようなサービスが出来るよう体制を作っている。入所後も必要に応じて、問い合わせをしている。	/	/	○	入居前に、管理者等が利用者や家族と面談を行い、基本情報シートや独自のアセスメントシートを活用して、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわり、大切にしてきたことなどの聞き取りをしている。病院の地域連携室等からサマリーなどの情報をもらったり、在宅時の介護支援専門員や介護サービス事業所などの関係者から情報を得ることもある。中には、情報を聞き取ることが難しい利用者もあり、家族から情報を聞くことが多くなっている。把握した情報は独自のアセスメントシートなどに記録を残し、職員間で共有するとともに、計画の更新時には、新たなアセスメントシートに情報を更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入所前に基本情報で把握しておくが、入所後の変化等は、気になる事は個人記録に残し、カンファレンスで検討し職員全員で把握出来るように努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	利用者の日課に対応した利用者毎の個人記録用紙を作成し、把握に努めている。変化に応じ、記録用紙も変更している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人への関心を持ち、本人の視点に近づこう努めている。モニタリング、カンファレンス、担当者会議で検討している。	/	/	○	往診時に、医師や看護師から指示やアドバイスを聞くほか、薬局などの関係者から意見をもらうこともある。また、利用者や家族から意見や意向を聞き、把握した情報をもとに職員間で話し合い、利用者の視点に立って、家庭的で、普段の生活が送れるように検討をしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	本人の反応を確かめ、ご家族、サービス提供者からの評価を伺い職員で検討し、課題把握に努めている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思い、意向、暮らし方が反映出来るよう努めている。	/	/	/	把握した情報をもとに、担当者会議を開催して職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に計画を作成し、施設長が確認をしている。コロナ禍が続いていたこともあり、担当者会議には、利用者や家族のほか、外部の関係者が参加することができなかったこともあり、事前に意見などの聞き取りをしている。計画には、利用者や職員から出された意見やアイデアを反映して、心身維持のために、階段の昇降や歩行訓練などを取り入れることができています。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族、多職種の方、お話をいただいて作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	入居前の情報と、日々のご様子を考慮し、穏やかに過ごせるように努めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族、連携している薬局、病院と協力をいただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	計画書完成の都度、職員に提示し共有している。			○	カンファレンスなどに参加して、職員は介護計画を確認するとともに、家族に同意を得た計画は、職員に回覧され、確認後に職員は押印するなど、内容を把握できるように努めている。また、介護計画は、職員がいつでも確認できるように、個別ファイルに綴じられている。前回の訪問調査から、個人記録である24時間の経過記録用紙を活用して、実施した支援内容に○印をつけて、実施状況を確認しやすけているが、計画に沿ったサービスの実施状況までは確認することができなかったため、記録様式に目標や支援内容を転記し、○×印でチェックをしたり、実施できなかった場合には、その理由を記載したりするなど、分かりやすく、モニタリングの確認や評価に繋げられることを期待したい。また、日々の管理日誌や申し送りノート、個人記録など、同じような記録の記載も見受けられたため、今後は介護ソフトの導入の検討を行い、職員の負担軽減に繋げていくことも期待される。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	計画に沿ったサービスを実践出来るよう、計画書を個人記録の前に綴じている。勤務者は個人記録に記録し職員間で状況確認し支援に繋げている。			△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間に応じて見直しを行っている。			◎	介護計画は、3か月に1回見直しをしている。利用者毎の担当職員が、毎月利用者の現状を確認するとともに、3か月に1回モニタリング評価・記録表を活用して、利用者や家族の満足度を確認するほか、効果や継続性などを評価するとともに、コメントを残すことができる。また、利用者の大きな状態の変更や退院時など、随時計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	1回/月でモニタリングをしている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化があり、計画がそぐわない場合は、計画の見直しを行っている。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	職場会議は1回/月、担当者会議は1回/3か月に開催し、緊急案件は都度職員で話し合いを設けている。			◎	コロナ禍が続き、ユニット毎に毎月現場会議を開催し、利用者の現状確認をするほか、課題などの話し合いをするなど、内部研修と合わせて1時間30分程度の会議を開催している。緊急案件のある場合には、施設長とその日の出勤職員で話し合うとともに、随時会議日時を設定して、話し合いをすることもある。より多くの職員が会議に参加できるように、事前に会議日程を調整し、毎月の勤務表の決定時には、会議の開催日時をお知らせしている。また、活発で有意義な会議が行われるように、事前に職員から議題を募るほか、課題等の意見を提出してもらうなどの工夫が行われている。さらに、会議に参加できなかった職員には議事録や申し送りノートなどを確認してもらい、確実な情報共有に努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から、誰でも意見が言える職場環境作りを心掛けている。会議では、自由に発言していただいたり、事前にアンケートを配布し目的を持った会議に努めている。			○	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	会議開催にあたっては業務内容等調整し開催している。開催後は、早急に議事録作成し、変更事は議事録完成後としている。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	△	朝・夕申し送り。その後、不明な点は確認し合っている。		◎	○	日々の朝夕の申し送りを、申し送りノートを活用して実施している。中には、短時間勤務の職員もおり、日中にも申し送りや引き継ぎが行われている。また、申し送りの後には、個別に職員同士で課題や不明な点を確認し合うこともある。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その日コミュニケーションから「したいこと」を把握し、行事とすり合わせをしながら叶えられるよう努めている。				日々のレクリエーションや入浴の有無、漢字合わせ、調理の手伝い、洗濯物の取り込みなど、職員は利用者へ声をかけて、その日にしたいことを自由に選んでもらい、思い思いの普段の生活が送れるよう支援している。また、着る服や手伝いなどを利用者自身で自己決定することは、習慣化されてきている。また、気の合う利用者同士が数人で居て話したり、漢字合わせなどのレクリエーションをしたり、調理の下ごしらえをするなど、本人がしたいことをしている時に、利用者の活き活きとした表情や言動を見ることが出来る。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	日常生活を通して、自己決定出来る声掛けや、関わりを工夫している。			○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	業務と利用者のリズムをすり合わせながら支援に努めている。				
		d	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気作りをしている。	○	穏やかに過ごして頂くことを目標として、言葉掛け、雰囲気作りをしている。			○	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	日常の関わりを通して、表情や仕草を職員間で共有し、皆が支援出来るように努めている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、自立たずさりがない言葉かけや対応等)	○	内部研修会を開催し、振り返りアンケートを記入してもらい、自身の発している言葉が利用者へ配慮出来ているか内省し、それを基に管理者と個別面談している。	○	-	○	内部研修の中で、職員は利用者の人権や尊厳などを学ぶ機会があり、理解促進に努めている。立位が不安定な利用者が、自身で立つて歩こうとする時などに、瞬間的に「ちょっと待って」など、職員が大きな言葉を発する場面も見られ、職員間で注意をし合うとともに、施設長が発見した場合には、その場で注意喚起をしている。また、トイレ誘導の際に、周りの利用者に関わらないように、職員が小声で伝えるなどの配慮をしている。さらに、居室の入室の際には、利用者の在室の有無にかかわらず、職員はノックや声かけをした上で、入室をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレは共有なため、トイレ誘導は特に配慮して介助を行っている。				
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室入室時には、声掛けとノックを心掛けている。			◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解し、遵守するよう周知している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	出来ることは行っていただき、していただきたいことに感謝を伝えている。	/	/	/	相性の悪い利用者もあり、大きな声を発するなどのトラブルが起こりそうな場合には、早期に職員が仲介するなどの対応をしている。また、職員は利用者の性格や利用者同士の関係性を把握し、配席などの考慮をしている。中には、電子ピアノを弾く男性利用者もあり、一緒に歌を歌ったり、不安そうな利用者へ他の利用者が励ましの声かけをしたり、車いすを押すのを手伝うなど、助け合いや支え合う場面も見られる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	入居者とおしのコミュニケーションを大切に、出来ることで相手と支え合えるよう努めている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者の関係性を考えながら、リビングで過ごす場所、順番、関わり方に気を付けている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	当事者それぞれの話を傾聴し、中立の立場で判断するよう努めている。周囲の利用者に影響を受けないよう配慮している。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入居前の情報と、日々の関わりの中で把握してきたが、利用者の長い人生を思えば、もっと把握していきたい。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	新型コロナウイルス感染症状況をみながら、面会の中止、再開を繰り返している。現在、予約制で面会を再開。本人が出掛ける機会が少ない。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	外出緩和時に近くの公園に花見に出かけたり、港まで出掛けたり、不定期にドライブもしている。施設に花を植え、水やり等外気に触れる機会を設けた。	○	-	○	コロナが5類に移行され、利用者が近隣の公園まで散歩したり、敷地内に出て外気浴をしたり、ドライブに出かけるなど、徐々に屋外に出る機会も増えてきている。また、重度な利用者も一緒にドライブをして、公園で花見をしたり、港に大型客船を見に行ったりするなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、病院への受診の際に、買い物に出かけることもある。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	新型コロナ感染防止の為、外部との接触は控えていた。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修、勉強会で学んでいる。学んだことを支援に活かせるように取り組んでいる。	/	/	/	ほとんどの職員が、認知症基礎研修を受講し、内部研修を実施していることもあり、認知症の行動や心理状態を理解している。また、利用者一人ひとりのできることやできそうなおことを把握し、できることは極力時間がかかっても自分でしてもらい、見守りや待つ介護に努めるとともに、できない部分を手伝うなどの支援をしている。さらに、調理や洗濯物たみなどの生活リハビリのほか、散歩や体操、歩行訓練、かるた、漢字パズルなどを取り入れ、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	生活しながら機能維持が出来るよう、立ち上がり、移乗でのバランス移動、歩行、嚥下運動に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来ることは、本人のペースを見守り自己肯定感を維持出来るよう心掛けている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入居前の情報を基に、施設での生活の中で楽しみ、役割、出番の把握に努めている。	/	/	/	調理の手伝いや洗濯物の取り入れ、テーブル拭きなど、習慣的に利用者が役割を担うことができていて、ブランターに花を植えたり、水やりをしたりするなど、役割や出番が担えるよう支援している。中には、以前音楽の教師をしていた利用者が、電子ピアノを弾いて一緒に歌うなどの出番や役割を担うこともある。また、利用者へ手伝ってもらった場合には、職員から感謝の言葉を伝え、張り合いや喜びのある生活が送れるような支援にも努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日々の関わりの中で、出来ることをしていただき、利用者ひとりひとりが主役で過ごせるように努めている。	◎	-	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	個別に対応し、その人らしさのおしゃれの把握に努めている。				毎朝、自分で服を着替え、身だしなみを整えることができる利用者もおり、職員は声をかけて、目や二を拭いてもらうなどの支援をしている。電気シェイバーを使用し、髭剃りをする利用者もいる。また、食べこぼしなどの衣服の汚れや乱れが見られた場合には、さりげなく拭き取るとともに、居室へ移動して、着替えてもらうなどのサポートをしている。中には、朝に着替えた後に、再度着替え、同じ服を着続ける利用者もいるが、無理強いすることなく、清潔保持に努めている。5月の母の日には、化粧をしてもらい、利用者に喜ばれている。さらに、訪問美容を利用し、重度の利用者も好みや以前の髪型にしてもらっている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	自宅での生活に近い生活が出来るように、家族様と相談し持ち物を整えている。訪問散髪では、利用者の好みの髪型をカットを依頼している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	入所前の基本情報を基に、家族に追加情報を得たり、日頃の様子から利用者像を膨らませ、利用者の気持ちに添えるよう努めている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	季節に応じた服装、また意思決定が出来る方は、本人希望の服装で過ごせるよう努めている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	支援するタイミング、声のトーンに気を付け、利用者の自尊心に配慮しながら行っている。	◎	-	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	訪問美容を受けているが、行きつけの希望あれば対応出来る。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度な状態であっても本人らしさが保てるよう職員配置も考慮している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	必要な栄養を、利用者自身が経口から取る事、食後は口腔内の清潔を保つ大切さを理解している。				その日の調理担当の職員が、冷蔵庫の食材等を見て献立を考え、調理の下ごしらえや片付けを手伝ってもらいながら、利用者と一緒に調理をしている。その日のメニューは記録に残している。近隣の農家から、旬の野菜を購入して届けてもらうほか、週1回生協の宅配サービスを利用して食材を購入し、足りない場合は、職員がスーパーに買い出しに出かけている。年間を通して、利用者に季節の行事食を提供するほか、誕生日には、事前に聞いた好みのメニューを提供している。季節に応じて、食卓の上で鍋料理をすることもあり、敬老の日には、テーブルを囲んで、美味しく羊炊きを食べることができ、利用者にも喜ばれている。訪問調査日には、ユニット別々のメニューが提供され、美味しくいただくことができた。アレルギーや苦手な食材のある場合には、代替品を用意している。茶碗や湯飲みなどの食器類は、入居時に利用者にも持参してもらうほか、様子をしながら、事業で用意した使いやすい物を使用してもらっている。利用者の状態に応じて、刻みなどの食の形態に対応している。また、内部研修の中で、嚥下状態でのトロミの使用などを学ぶとともに、お茶などに入れて、実際に職員が試飲体験などを行っている。コロナ禍で開設した事業所は、当初から食事の際に、利用者のみで食事を摂っており、職員は利用者と同じ目線で見守りやサポートを行うとともに、休憩時間を利用して、持参した食事を摂っている。さらに、日中に利用者の多くはリビングで過ごし、オープンキッチンから調理の音や匂いを感じることができている。加えて、栄養士までのアドバイスを受けることができていないものの、職員間で調理方法やバランスなどを話し合うことができています。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	一部の利用者には、不定期に依頼し、調理、後片付けを共にやっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	利用者の力が発揮出来るよう、さりげなく支援し、出来た達成感と感謝を伝えることで自信を持ってもらえるよう努めている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前の情報を基に、日々の関わりの中で情報を追加していき継続把握に努めている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのもの等を取り入れている。	○	調理担当者が、毎食献立を考え調理している。メニューを記載し残している。毎週食材を注文し、近所の農家さんの取れたて野菜を届けてくださっている。年中行事食、誕生日食を提供し、回想話を伺っている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者の状態に合わせた料理形態。食器の選択、食器の配置をしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入所時は、使用していた茶碗、湯呑みを持参して頂いている。日々のご様子を見て、使いやすい食器に変更する事がある。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	職員と一緒に食事を摂っていない。食事摂取は出来る限り、自力摂取していただき、介助が必要な時は、同じ目線でさりげなく行うようにしている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	五感で食事を感じていただけるように、調理担当者、フロア担当者が協力して努めている。			◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	個人記録表を作成し、1日量が確保できるか確認しながら支援に努めている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	個人記録表を作成して、提供毎に摂取量と、1日総摂取量を記入その、次回の提供時の参考としている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	調理担当者が、食材と、献立表をみて、偏らないようにメニューを決めている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	職員は手洗いの励行。調理器具は調理後に洗浄消毒している。毎食前にテーブルと利用者の手指消毒している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	提携歯科から、座学と実技講習を受け、必要性、重要性を理解した。	/	/	/	内部研修の中で、歯科医から口腔ケアを学び、職員は必要性や重要性を理解している。毎食後に、職員は利用者に声をかけ、リビング横にある洗面台で口腔ケアを実施している。事前に、口腔ケア用品を用意し、多くの利用者は自分で歯磨きをしている。中には、歯間ブラシなどの用品を使用し、職員がサポートをするとともに、全ての利用者の口腔内の確認をすることができている。口腔内の異常が見られた場合には、訪問歯科診療に繋げている。中には、義歯を預かることを嫌う利用者もいるが、定期的に消毒液に浸けるなど、清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	入居前に基本情報で把握し、毎食後の口腔ケア時に変化はないか観察している。	/	/	/	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	講習会で実技もあり、口腔ケアの正しい方法を学び日常の支援に活かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	講習会の実技を生かし、利用者の義歯の手入れを利用者に合わせ支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後に声掛け、見守り、出来ない箇所を支援を行い、治療が必要な利用者は訪問歯科に繋げている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の自立の大切さを理解している。1回/月の職場会議で排泄対応の見直しを行っている。	/	/	/	重度化に伴い、テープ式のおむつを使用している利用者もいるが、事業所では、可能な範囲で利用者がトイレで排泄できるよう支援している。中には、布パンツで過ごすことができている利用者も数名いるが、ほとんどの利用者は紙パンツを使用している。また、夜間にポータブルトイレを使用したり、睡眠確保などから、夜間のみ、おむつを使用する利用者もいる。また、排泄表を使用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者に合わせて声かけやトイレ誘導をしている。さらに、利用者の状態に応じて、パッドや紙パンツなどの排泄用品の使用が必要となった場合には、月1回行う現場会議で、必要性や適切な用品を話し合うとともに、利用者や家族に相談の上で使用している。軟便剤を服用している利用者もいるが、水分量を確認するほか、運動やマッサージを取り入れ、利用者の自然排便を促している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘からくる利用者の個々の変化を職員で共有し、個々の対策を検討している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を利用し確認している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	出来る限りトイレで用が足されるように、個別に対応している。1回/月の会議で対応を検討している。	/	◎	/	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	1回/月で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	利用者の仕草を職員間で共有するとともに、排泄チェック表を利用して、トイレで排泄が出来るよう努めている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	入所前に、ご家族とおむつの使用を相談し、入所後の変化時にはご家族、業者等に相談し利用者の使い勝手の良いものに変更している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	個別に下着の種類を決めたり、日中と夜間で使い分けを行っている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	個々の飲水量を確認しながら、水分摂取を勧めている。生活の中に運動、マッサージを取り入れている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	曜日、時間帯、回数は習慣に添えていない。長さ、温度は添えるよう努めている。	/	◎	/	週2回、午前中の時間帯に、利用者は入浴をすることができる。回数増や毎日の入浴希望、時間帯を指定する利用者はいないほか、現在は入浴を拒む利用者もいない。入浴の際には、職員がバイタル測定や状態を観察するほか、希望に応じて、湯船に浸かる長さや湯の温度など、可能な範囲で柔軟に対応しており、職員と一緒に長話を楽しむ利用者もいる。また、希望に応じて、家族に好みのシャンプーやボディーソープなどを用意してもらったりほか、季節に応じて、ゆず湯にしたり、入浴剤を入れたりするなど、気持ち良く入浴してもらえような支援にも努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個別に対応しており、くつろいでもらえるようベースに添った支援に努めている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	事故が起こらないように配慮しながら、自分で出来る動作はしていただいている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	原因を考え職員間で検討し無理強いしないよう努めている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	引継ぎで状態把握し、入浴担当者がバイタル測定を行い入浴対応をしている。入浴後はフロア担当者が状態観察を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	入居前情報を基に、日々の睡眠状態を個人記録しており、普段の睡眠状態の把握に努めている。	/	/	/	個人記録である24時間経過用紙に記録し、利用者一人ひとりの睡眠状況を把握している。中には、眠剤などを服用している利用者もいるが、日中の過ごし方などの工夫を行い、職員はできる限り服薬に頼らず、夜間に良眠できるよう努めている。また、薬が効きすぎて、日中にもふらつきなどの症状が見られた利用者もいるため、医師や看護師と相談し、薬の減量に繋がった事例もある。中には、腹痛などから眠れないことが続いていた利用者もいたが、医師と相談しながら対応し、現在落ち着きを見せている。ほとんどの利用者は、現在夜間に眠ることができている。早く寝て、早く起きてくる利用者もあり、4時半頃から朝食を準備し、食事を摂れるように対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	入所前情報を確認しながら、日中の過ごし方を見て原因を探るようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	職員で対応を試みて、検討を重ね医師と相談するようにしている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者の生活パターンを把握して、個別に休息、昼寝する時間を設けている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば対応している。着信、届いた手紙、品物は本人に取り次いでいる。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	支援希望に対応している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	周囲を気にせず話ができるように電話出来る場所を案内している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	受け取った連絡を入れている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	入所時に家族に説明して協力を得ている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	自尊心、自立心を保つ意味があることを理解しているが、所持されていない。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	現金の持ち合わせがない為、日頃から買い物先へ協力を得る働きかけは出来ていない。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	お金の所持は無く支援していない。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	入所時にお金の所持はしないことの同意をいただいている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	お金の所持が無い為ではない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ニーズに応えられるよう努めている。	◎	/	○	コロナ禍が続き、外出や面会などの制限が設けられていたが、徐々に緩和され、利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で柔軟な対応をしている。中には、遠方に住んでいる家族もあり、職員が病院への同行支援をすることもある。家族から、利用者との外出や外食などの要望も出されるようになり、施設長はさらなる制限をなくすことを検討している。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入ることができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先、フェンスに花を設置している。	◎	-	○	幹線道路沿いにある事業所は、近くに総合病院があるほか、スーパーやドラッグストアなどもあり、生活を送る上で利便性の良い環境となっている。玄関先や建物周りには、プランターに花を植え、明るい雰囲気を感じられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	玄関に生け花、観葉植物、階段・廊下には壁掛けを設置している。	○	-	◎	事業所は開設して約3年半が経過したが、職員が清掃や換気をするほか、整理整頓も行き届き、快適な空間が保たれている。ユニットの入り口には、クリスマスリースなどが飾られているほか、リビングある窓から、田んぼに植えられた稲作の成長が見えるなど、利用者は季節を感じる事ができる。リビングの横には洗面台の鏡が並び、大きな窓もあることから、開放的に感じられる。廊下にはソファが置かれ、移動や歩行訓練の途中で、利用者は休憩できるようになっている。また、建物の3階には洗濯機が置かれているほか、屋上が洗濯物干し場となっており、利用者は洗濯物を取り入れながら、周辺の景色を眺められるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎朝掃除を行い、こまめに換気をしている。カーテンで遮光調整をしている。	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	窓の外にプランターを設置して、利用者と季節の花の植え替えを行っている。季節行事、食事・アクティビティで提供し、回想を取り入れている。	/	/	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングからは距離を取れ、気配を感じながら過ごせるよう廊下にソファを設置している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	居室に備え付けの家具は個々にレイアウトをしていただいている。持ち込まれたり、送られてきた思い入れある品が置かれてある。	◎	◎	居室には、ベッドやタンス、エアコンなどが備え付けられ、利用者は使い慣れた家具やテーブル、テレビを持ち込むほか、家族の写真やぬいぐるみなどを飾り、居心地の良い空間づくりを支援している。クローゼットもあり、不要なものを置かず、すっきりと片付けられた居室もある。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	フラットな床で横開きドア、手すりを設置して事故防止につけている。トイレは大きく表示をして、見やすい表示にした。	/	/	○	自分の居室を認識しにくい利用者には、居室の入り口に、利用者目線に合わせて、名前と顔写真を貼り分りやすくしている。トイレの中には、発泡スチロールのブロックが置かれ、踏み台にして足の高さを調整するなど、利用者が排泄しやすいような工夫も行われている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	安全を優先して管理している物が多いが、希望があれば見守りで使えるよう準備している。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	弊害は理解しているが、車の通りが多く、万が一の事を考えユニットによっては家族同意のもと施錠している事がある。	x	-	△	職員は内部研修等で学び、玄関等に鍵をかけることの弊害を理解している。日中に、玄関やユニットの入り口の施錠をしておらず、夜間のみ、19時30分から7時まで玄関やユニットの入り口の施錠をしている。以前に外に出て、数キロ離れた自宅まで歩いて帰っていた利用者もおり、建物が交通量の多い幹線道路に面していることもあり、利用者の安全面を考慮して、勤務状況や利用者の状態により、ユニットの入り口を施錠することもある。コロナ禍に開設した事業所は感染対策もあり、外来者にはインターホンで対応しており、利用者家族等アンケートから、鍵をかけない取り組みについて、十分な理解が得られていないことが窺えるため、日中に玄関を施錠していないほか、安全面を考慮して施錠場面があることを再説明するなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	理解をいただけるよう入居時話をしている。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所前情報を基に「基本情報」としていつでも見れる場所に設置している。日々の変化は個人経過記録に記録し、申し送り把握に努めている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	いつもと違うことが発見できるよう、利用者の普段を把握して対応している。継続した対応のため記録する重要性を理解している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になる事は、気軽に相談できるよう、お互い日頃の関係構築も心掛け適切な対応が出来るよう努めている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	これまでの受療状況を把握し、希望される医療機関や医師に受診出来るよう支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	希望を大切に適切な医療が受けられるよう努めている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	必要毎に、本人や家族と受診の仕方、受診結果報告、伝達方法を相談している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	病院からも書面で情報提供の希望があり、書面提示と共に口頭でも行うようにしている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	通院時から、情報交換に努めている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	職場内の看護師に伝えて相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	管理者、協力医療機関には24時間いつでも相談できる体制がある。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	状態変化時の連絡体制もあり、早期に治療に繋がるよう動いている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	個人別薬剤情報ファイルをいつでも見れる場所に設置して、現在服用中の薬の情報、今までの内服歴が確認出来るようにしている。変化は個人記録に記載し、看護師、管理者に提供している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	指示通り服薬出来るように、その都度複数職員が確認している。誤薬があった場合はその都度対策を考えている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日常的に確認を行い、職員間で共有出来るよう記録に残し引き継いでいる。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に看取りについて説明し状態の変化毎に家族と話し合い、意向を確認している。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合における対応に係る指針」「看取りの必要性が生じた場合の指針」があり、入居時に、家族等に対応できることを説明するとともに、看取り介護等の同意書を取っている。状態の変化などの段階に応じて、家族等に説明して話し合い、再度意向を確認している。また、重度化した場合には、利用者や家族等の意向に沿って、往診時等に医師から家族に説明するとともに、関係者を交えて話し合い、方針を共有している。看取り介護時には、職員と医療機関、薬局などのチーム体制で支援が行われ、感染対策を講じた上で、家族との面会を可能にしている。事業所では、今までに5名の看取り介護を経験している。さらに、職員には看取り研修を実施し、知識習得を促すとともに、負担や不安の軽減にも努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	その都度、本人・家族の意向と医療機関の治療方針を確認し、職員と共有している。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	利用者の状態、職員の対応力、協力体制を見極めて支援体制を整えている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時に入院との医療対応の違いを説明し、状態変化の都度、施設で出来る支援の説明をしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族、医療機関、薬局と連携しながらチームとして支援するよう努めている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	日頃からの関わりを大切にしている。その都度、家族の意向を確認し添えるよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症の勉強会は職場の年間計画に入っており、学んでいる。感染の流行時期には、注意喚起を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	マニュアルはあるが、訓練は出来ていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	必要時に確認している。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員、利用者は都度手洗いを励行している。定期的な手すり消毒を行っている。マスク着用中で、うがいは取り組んでいない。来訪者用の消毒液を準備している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	利用者を共に支え合う関係であるよう努めている。	/	/	/	コロナ禍に開設した事業所では、今までに家族が参加できる行事やイベントを開催できていない状況が続いている。感染状況が緩和され、3階のスペースを活用して、事前予約制で家族との対面での面会に対応できるようになっている。また、面会時や電話連絡時を活用して、職員は家族に利用者の近況を伝えるとともに、2か月に1回利用者の様子を書いた手紙やお便りに、写真を添えて送付している。状況に応じて、メールを活用して連絡を取り合う家族もいる。前回の訪問調査から、お便りを活用して、事業所の取り組みや職員の入職などをお知らせするようにしているが、利用者家族等アンケート結果から、家族に事業所の出来事や職員の入退職などが十分に伝わっていないことが窺えるため、今後は、集合形式の運営推進会議の中で、家族等に入退職などを報告したり、可能な範囲でお便り等を活用して、新人職員等を紹介したり、面会スペースの3階のほか、ユニットの入り口にその日の出勤職員を写真付きで紹介するなど、来訪する機会が少ない家族にも分かりやすく伝えるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナ禍だった為、出来ていない。	○	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	1回/2か月程度で、写真付き便りを送付している。また、メールでやり取りをしている利用者家族がいる。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入居前の係りを理解し入居中の利用者との関係支援に努めている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事、職員の紹介をしている。	×	/	△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時、状態変化時にリスクと対応策を説明して、理解を得れるよう努めている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	日頃からご家族と馴染みの関係が築けるよう努めている。玄関に意見箱は設置している。湯茶の自由利用はしていない。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に説明し、理解をいただいている。必要時対応している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	不明な事が無いように説明を行っている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立時に説明しご理解を図っている。	/	/	/	コロナ禍に開設した事業所は、町内会に入会しているものの、地域住民と交流できる機会は少ない。近隣住民から採れたての野菜を購入して配達してもらうほか、散歩時等には、近隣住民と挨拶や会話を交わしたりすることもある。秋祭りに際しては、神輿に参訪してもらい、一緒に写真撮影をしたり、獅子舞の演舞をしてもらったりするなど、利用者には大変喜ばれている。施設長は、「近隣住民に子育て中の家族も多く、住民と一緒にイベントを開催できないか」と模索している。今までに、集合形式の運営推進会議の開催ができておらず、地域住民等に会議への参加の呼びかけや、地域アンケートの配布もできていないため、今後は、主旨を説明した上で関係者等にアンケートを配布してアンケートの協力をお願いするなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	町内会費の納入、近所の畑で取れた野菜の購入、お祭り時の神輿入れ、日常的なあいさつを行っている。	/	/	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	見守り、支えはあるが増えている実感はない。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	気軽な立ち寄りには少ない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	日常的なおつきあいは多くない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	働きかけは出来ていない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	拡大に向けた取り組みを行なえていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	家族、地域の方の参加はない。	×	/	△	コロナ禍が続き、今までに集合形式の運営推進会議の開催はできていない。書面では、事業所の活動報告や感染対策のほか、メールで行政等に報告をしているが、家族等への報告までできていない。また、地域住民等への会議への参画も呼びかけができていない状態となっており、市担当者や地域包括支援センターに相談するとともに、今後は野菜を届けてくれる近隣住民のほか、地域の自主防災組織や民生委員などに主旨を説明の上で参加を呼びかけたりするなど、事業所への協力者を募ることを期待したい。11月末に、初めての集合形式の会議の開催を予定しており、家族への案内を予定している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	誰でも閲覧できるように玄関に置いている。	/	-	△	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	工夫出来ていない。	/	-	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念は見える所に提示しており、都度目を通して実践出来るよう努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	来訪者には分かりやすい提示がない。	○	-	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員を把握し研修を受けられるよう取り組んでいる。	/	/	/	別のグループホームを運営する代表者は、定期的に事業所への来訪があり、職員に声をかけるほか、事業所内の様子を確認している。また、事業所として年間の研修計画を立てて、毎月内部研修を実施し、職員のスキルアップに繋げるとともに、資格取得も促している。認知症基礎研修は、ほとんどの職員が受講し、残りの職員も早期の受講を予定している。さらに、年2回施設長は職員との個別面談を行い、目標に沿った進捗状況を確認して意見を聞くとともに、職員が話しやすく、何でも言い合えるような働きやすい環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	スキルアップに取り組んでいる。資格取得にも繋がっている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	1回/6か月毎に個人面談し、職員の目標についてすり合わせている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	連絡会などの参加はしている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	普段から何でも言い合える環境作りに努めている。	◎	-	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	研修会、勉強会にて学び、実践出来るよう努めている。	/	/	/	○ 定期的に実施する内部研修等の中で、虐待や不適切な言動の防止などを学び、職員は理解している。事業所には、虐待・身体拘束廃止委員会が設けられ、定期的に話し合いをしている。日頃から、施設長は現場会議や内部研修の中で、不適切な言動が行われないように職員へ伝えるなど、注意喚起に努めている。また、虐待の芽チェックシートを活用して、一人ひとりの振り返りをしてもらうとともに、面談時等に職員と話し合いをしている。さらに、不適切な言動が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、施設長が発見した場合には、該当職員に確認の上で、指導や注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	巡回し、現場把握に努め、1回/月職場会議を開催し話し合いの場を設けている。不定期にセルフチェックをして振り返る機会を設けている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日頃の関わりを大切にしているとも違う感じに注意している。状況見て個人面談し、考え、思いを聞き取るよう努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会をし理解に努めている。判断が難しい時には上司に相談するようになっている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会や自己評価、必要時には、1回/月の職場会議の議題として話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	事業所の取り組みを説明して、理解を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解し、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	×	今までそのような事がない。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要になれば出来るように準備はできている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成して周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練はしていないが必要時に手当、対応を反復し、実践力を付けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	対策を実践し再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	入所前情報を基に、個別に対策を立て、生活を観ながら見直し事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルは作成しているが、対応方法の検討は少ない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があった場合は都度対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに検討を解答し、納得して頂けるよう努め、関係づくりを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	日頃から気軽に話気出来る関係性を築けるよう努めている。	◎		○	日常生活の中で、利用者が気軽に話しやすい環境づくりに努め、職員は意見や要望を聞き、可能な範囲で対応をしている。家族が来訪する機会は少ないが、面会時や電話連絡時を活用して意見や要望を聞くよう努めている。また、事業所内には意見箱が設置され、定期的に中を確認しているが、今までに投函されたことはない。さらに、日頃から施設長は職員から意見や要望を聞くとともに、年2回個別面談を行い、意見や提案を聞くことができ、レクリエーションのアイデアを取り入れるほか、職員や利用者の負担軽減のために、スライディングボードなどの福祉用具を導入したこともある。加えて、年1回以上、職員アンケートを実施し、職員の声を集めやすくするような工夫も行われている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	公的な窓口があることを、折に触れて説明している。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	出勤者と言葉を交わすようにしている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	1回/月の職場会議で、職員から利用者の支援について検討している。職員から個人的にと希望があれば意見や提案を聴く機会を持っている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	不定期に行っている。				外部評価の自己評価は、施設長を中心に作成をしている。また、現場会議等の中で、サービスの評価結果や課題を職員に伝え、目標達成に向けて取り組んでいる。書面では、評価結果を家族に送付している。今後は、集合形式の運営推進会議の中で、会議の参加メンバーや家族にサービス評価の取り組みの意義や目的を伝えたり、感染状況が落ち着いた際には、参加メンバーや家族にモニターの協力を呼びかけて意見をもらったりするなど、職員間で検討していくことを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	事業所の課題を考え目標達成に向け取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	実施出来ていない。	○	-	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業所内では確認している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアル作成して玄関に掲示している。	/	/	/	事業所では各種マニュアルを整備して、職員に周知するとともに、火災などを想定した避難訓練を実施している。消防署との連携は図れているものの、コロナ禍が続き、地域住民や他の事業所等との合同訓練などはできていない。集合形式の運営推進会議も開催できていないこともあり、地域住民等と災害への備えを話し合う機会もない。今後は、地域の防災訓練に参加して、自主防災組織等に協力を呼びかけたり、地域住民と合同の避難訓練を実施したり、運営推進会議等を活用して、災害の備えの話し合いをするなど、少しずつ地域との協力支援体制が構築されていくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画している。	○	想定を変えて避難訓練をしている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	点検している。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署との連携はあるが、地域、他事業所との連携、訓練は出来ておらず協力・支援体制の確保はない。	△	-	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	ネットワークづくりは行っているが、共同訓練は行っていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	取り組めていない。	/	/	/	事業所に近隣住民が相談に来ることもあり、快く対応をしている。コロナ禍に開設した事業所は、面会制限等が設けられていたこともあり、ボランティアや養成校の実習生などの受け入れは行われていない。市行政や地域包括支援センターなどの会議や研修、地域イベントに参加する機会は少ないものの、地区の介護保険サービス事業者連絡会やケアマネ連絡会に参画し、連携が図れるよう努めている。今後は、地域包括支援センターや他団体等と連携しながら、徐々に地域活動に協力していくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	来所があれば行っている。	/	-	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用出来ていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	協力出来ていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	密には行っていないが連携はとっている。	/	/	○	